

群 教 セ	G11 - 03
	平14.205集

互いのよさを生かし合い、みんなで喜び 合う学級活動

話し合い活動に保護者との連携を取り
入れたシミュレーションを通して

長期研修員 特別活動班 小川 吉晴

《研究の概要》

本研究は、小学校において保護者と連携して、互いのよさを生かし、みんなで喜び合えるそんな楽しい学級活動を目指したものである。校内研修や児童、保護者のアンケート調査をもとに特別活動（学級活動）の全体の指導計画と各学年（学級）の学級活動の年間指導計画を作成した。さらに、5年生の学級活動指導略案を作成し、それをもとに保護者と共に話し合い活動の構想を練り、授業を実践した。そして、研究の成果と課題を明らかにした。

【キーワード：小学校 特別活動 学級活動 学家連携 保護者 指導計画】

主題設定の理由

学級活動は、学級のみんなが生かされた楽しいものでなければならない。児童一人一人の考えが話し合いや実践活動に反映されている。児童一人一人が何らかの役割をもち貴重なメンバーとなっている。学級のみんなが目的に向かって自主的に取組んでいる。学級のみんなが集団としてやり遂げたという実感がある。このようなことが学級活動には必要であると考える。

そのためには、児童の話し合い活動が充実している必要がある。話し合い活動で児童一人一人のアイデア（すばらしさ、もっているもの、優しさ、強さなど個性的な考え、それには広がりや深みなどの発展性がある。）が和気あいあいのうちにみんなに認められ、練り上げられていく。楽しい学級活動とは、こうしたみんなの喜び合う姿が見られる学級活動でなければならないと考える。

しかし、特別活動調査（平成14年10月9日、県内小・中学校特別活動主任166名対象に実施）に、「児童に話し合う力をどうつけるか。」「事前の話し合いや準備、事後の実践での指導が十分にできていない。」とあるように、問題の解決や実践に向けて話し合いが充実していない現状がある。

このような現状を改善するためには、まず、児童一人一人のよさに着目し、生かしていく話し合い活動を充実させる必要があると考える。児童一人一人がアイデアを発表できる場があり、生かそうとする学級の雰囲気がある。アイデアが生かされることで感じ取った自己有用感が活動意欲を駆り立てエネルギーとなる。そして、そのエネルギーがみんなに及び互いに高められていく。このようなよさを伸ばす話し合いの工夫が必要なのである。

そこで、話し合い活動において保護者との連携を図る必要があると考える。児童はよさを生かしたいと思っている。教師は児童がよさを生かしてほしいと願っている。その願いは保護者も同じである。保護者が話し合い活動の計画段階から学級活動に参加することで、こうした思いや願いを教師と保護者とが共通認識し、児童一人一人のよさを生かす教育を考えることができる。また、保護者が話し合い活動で得た新たな発見や喜びを家庭生活に生かせるようになる。

以上のことから、保護者との連携を通して、児童が、互いのよさを生かし合い、みんなで喜び合える学級活動を目指して本主題を設定した。

研究のねらい

校内研修から教師の思いや願いをくみ取り、アンケート調査で児童と保護者の思いや願いをくみ取り、「特別活動（学級活動）の全体の指導計画」や「各学年（学級）の学級活動の年間指導計画」にその思いや願いを反映させる。さらに、「学級活動指導略案」を作成し、それをもとに保護者と構想した話合い活動を共に実践することで、互いのよさを生かし、みんなで喜び合える、そんな楽しい学級活動づくりを目指した。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「互いのよさを生かし合い、みんなで喜び合う学級活動」とは

「互いのよさ」とは、自分のよさと友だちのよさをいう。「よさ」とは、アイデアである。アイデアとは、すばらしさ、もっているもの、優しさ、強さなど個性的で広がりや深みがあり発展性のある考え方である。

「生かし合い」とは、

低学年の児童は親しみ合いながらアイデアが何でも言えること

中学年の児童はみんなのアイデアを認め合うことで友だちの考えを受け入れること

高学年の児童は自分のアイデアに友だちのアイデアを取り入れることで練り合いながら改善していくことである。

「みんなで喜び合う」とは、新しい自分のよさの発見と友だちとのよさの触れ合いで達成感や満足感、自己有用感などの自分なりの喜びを感じ取り、それが学級の中に広がっていくことを言う。（図1参照）

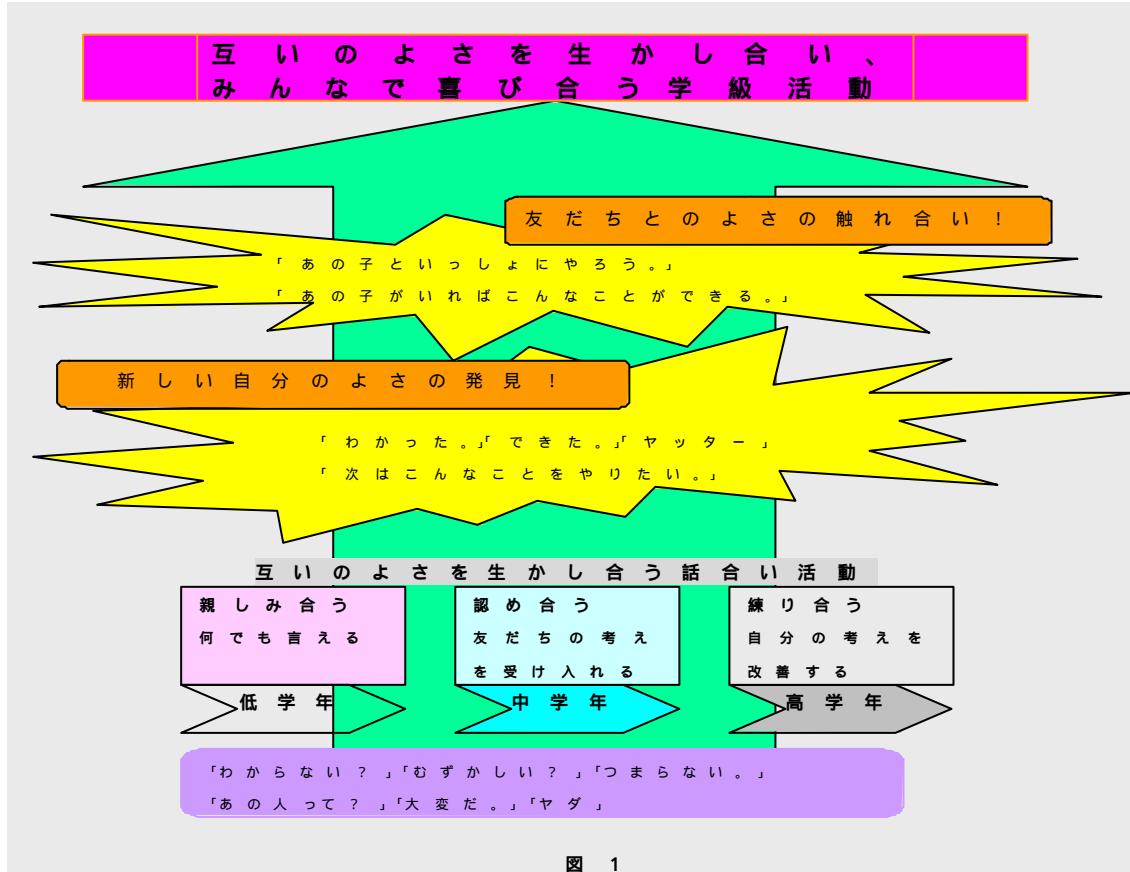


図 1

(2) 「保護者との連携を考えたシミュレーション」について
「保護者との連携」を、次の二つの段階で考えた。

1 連携のための基礎をつくる段階

保護者対象のアンケート調査

保護者の思いや願いを反映させた指導計画づくり

学級活動を中心とした特別活動の全体の指導計画づくり

学級活動の年間指導計画づくり

学級活動指導略案づくり 本年度は第5学年を作成

2 連携を推進する段階（保護者とともにつくる段階）

事前の活動

保護者が加わった「計画委員会」の組織をつくる。

話し合いの計画をつくる。

本時（話し合い活動）

保護者が小集団（班）や学級全体での話し合いに参加し児童一人一人のよさを引き出す。

保護者の立場で、一人一人のよさを生かし喜び合えるように導く。

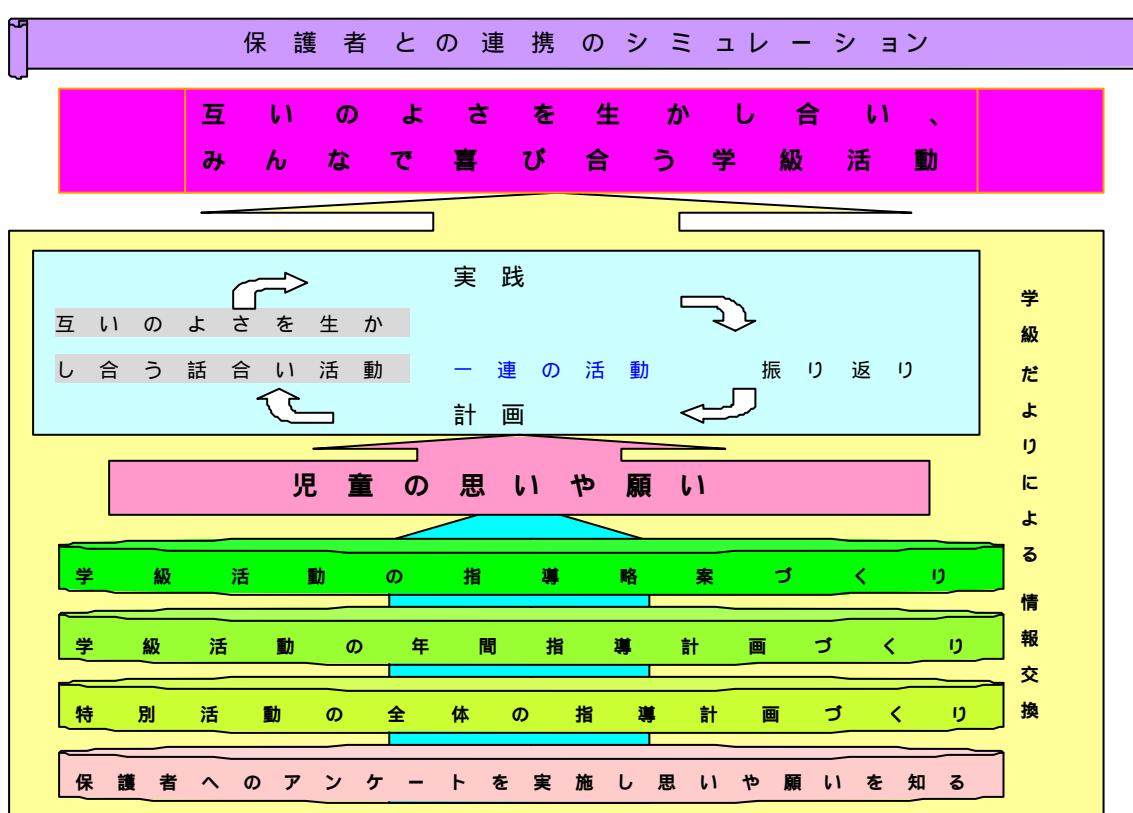
事後の活動

実践場面に保護者が参加・協力する。

児童とともにを行う活動の振り返りをする。

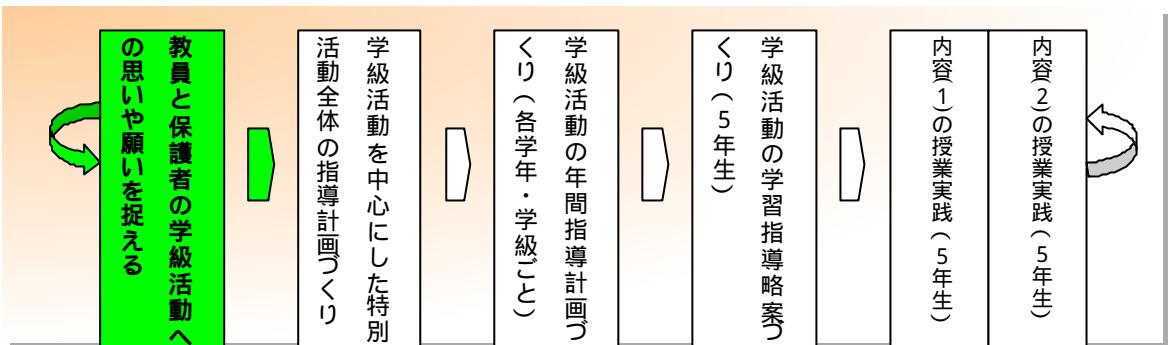
日常的に学級便り「はぐくみ」を発行して、教師と保護者とで学級活動に関し情報交換をする。

「シミュレーション」とは、児童の思いや願いを生かすために保護者と連携した学級活動の一連の過程をいう。（図2参照）



2 研究の実践

(1) 教師と保護者の学級活動への思いや願いを捉える



互いのよさを生かし合い、みんなで喜び合っている学級活動での児童の姿から、教師と保護者の思いや願いを捉え、特別活動の計画作成部会を立ち上げる。

1 個々の教員がイメージを出し合う

校内研修全体会で、個々の教員がイメージしている、「学級活動で互いのよさを生かし合い、みんなで喜び合っている児童の姿」を、KJ法を活用して出し合った。

個々の教員がとらえているイメージを、とことん出し合い、考えを交流し合ったことで、自分にない多様な見方・考え方があることに気づき、イメージが広がった。

最後に、「互いのよさ」「よりよく生かす」「喜び合う」という3つのキーワードで、グループニングし、「学級活動で互いのよさを生かし合い、みんなで喜び合っている児童の姿」を明確化し、児童の見方を深めた。(下の図参照)



2 学校だよりで保護者に伝える

(資料1, 2参照)

教員が出し合った「学級活動で互いのよさを生かし合い、みんなで喜び合っている児童の姿」を、学校だより「はぐくみ」で保護者に伝えた。学級活動で育つ児童のよさを知らせることで、学級活動とは何か、学級活動において教員と保護者とが共通の基盤に立って児童を育てることとは何か、を理解していただけたよう努めた。

3 保護者の学級活動への連携意識の実態を知る

既存の「学級活動の年間指導計画」(保護者用に改めたもの)を全保護者に配布し、学級活動で互いのよさを生かし合い、みんなで喜び合っている児童の活動をつくるために、何に協力していただけたか、調査を実施した。

4 児童の思いや願いを知る

3と併せて、児童の学級活動への思いや願いを知るために、アンケート用紙を全校の児童に配布し、次の視点で意識調査を実施した。

- 1 楽しい学級活動にする視点
- 2 話合い活動の視点
- 3 係活動の視点
- 4 集会活動の視点
- 5 自分のよさの視点

5 特別活動の計画作成部会(以下部会)を立ち上げる

これまでやってきた教師の捉える児童像と保護者の学級活動への連携意識の実態と児童の思いや願いを指導計画に反映させるために部会を立ち上げた。

特別活動主任を中心に各学年代表1名で組織する。(今回は5年生で授業を実践した関係で、私と5年生の担任2名及び教務主任、特別活動主任で組織した。)

部会は、私の作成した特別活動の全体の指導計画、学級活動年間指導計画、学級活動学習指導略案を確認し合う組織であった。

資料1

平成 年 月 日 発行 第 号



文責：

学校は、子どもにとって「楽しい」と思えるところでなければなりません。そのため、学校と家庭が共に協力して子どもの成長を助けていかなければならぬと考えます。私の研究は、そのため保護者が学校の学級活動に参加・協力していく糸口を探るもので、2学期からすぐ実践ということではありませんがよりよい学級活動をつくるために活用させていただきます。

この通信の目的は、小の学級活動を子どもにとって、楽しいものとするために発行するものです。まず、私の研究に関する内容を知ってもらいます。そして、保護者の方々の質問やご意見をお聞きする中で、今後の学級活動の充実を図っていきたいと考えています。

学級活動とは

学級という集団の中で、学級や学校の生活の充実と向上を図り、豊かな人間性や社会性を育成することを目指しています。

学級活動で扱う内容は次のようなものがあります。

学級や学校生活を楽しくすることを扱います。

人間関係について扱います。

基本的な生活習慣について扱います。

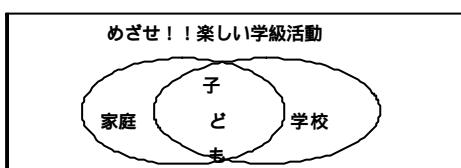
希望や目標をもって生きることについて扱います。

健康や安全について扱います。

図書館の利用について扱います。

学校給食や食習慣について扱います。

これらの内容を具体化し「計画 話合い 実践 振り返り」という一連の活動を通して充実を図っています。私の研究は子どもを核において、学校と家庭の連携を深めることにあります。図に示すと次のようにあります。



中でも、子ども一人一人がもっている「よさ」に着目し、そのよさを学級活動で生かし、伸ばしていくたいと考えています。

子どもの「よさ」を育む学級活動！

例えば、こんなことを目ざしてします。

係活動についての話合いを通して、学級を明るく楽しいものにします。

整理整頓の話合いを通して、自分の部屋をきれいにしようとする意識が育ちます。

あいさつについての話合いを通して、あいさつを元気に交わすことの大切さが分かるようになります。

学習の仕方についての話合いを通して、効果的な学習方法を考えるようになります。

ストレスの学習について学習することで、健康について考えるようになります。

読書に関する話合いを通して、本に親しもうと努力するようになります。

食生活についての学習を通して、何でも食べることの大切さについて考えるようになります。

おこづかいの使い方の学習を通して、貯蓄することの意義を知ります。

こうすればすぐ子どもが良くなるというものではありませんが、学校や家庭とが、さまざまな場面や機会をとらえて協力し合い、子どもの「よさ」をさらに伸ばして行けたらと願っています。

「よさ」に気づき、よりよく生かす子ども！

学校や家庭で

子どもの「よさ」を伝え合いましょう。

そうすることで、自分に自信ができます。

子どもは、学校や家庭で自分の「よさ」を生かそうとがんばります。

子どもの「よさ」を生かし合いましょう。

そうすることで、さらに自分の「よさ」を伸ばそうと努力します。ますますやる気になり、積極的に自分アピールするようになります。友だちのためにとか家族のために役立とうとします。

学校と家庭双方で、

家庭での子どものよさを学校に伝えてください。学校でも子どものよさを家庭に伝えします。

そうすることで、お互いが気づかないよさを知ることになり、家庭や学校で子どもをより広く生かせるようになります。

子どものよさを共に生かし合いましょう。

そうすることで、学校と家庭とが同じ土俵に立ち実践でき、効果が上がります。

資料2

平成 年 月 日 発行



文責：

子どもを育てるには、学校と家庭とが手を取り合っていくことが大切です。家庭での教育方針と学校での教育方針が合っていれば教育効果はぐんなります。私の研究は、家庭と学校で生活する子どもたちを望ましい方向に育てるために、保護者の皆様とともに「楽しい学級活動」の充実を図っていくということです。

楽しい学級活動で育つ「よろこび」を見いだす子ども・・・

子どもの「よろこび」を見つけましょう。

そうすることで、子どもの「よさ」を伸ばすことができます。

「よろこび」が広がり、勇気がわいてきます。

子どもの「よろこび」を生かしましょう。

そうすることで、苦しみや悲しみ悩みなどをのりこえ、やり抜こうとする強い気持ちが育ちます。活動意欲がわき、さらに自分の「よろこび」を友だちや家族に広げようと努力します。

家庭での子どもの「よろこび」を学校に伝えてください。学校での子どもの「よろこび」を家庭に伝えます。

そうすることで、お互いが気づかない「よろこび」を知ることになり、家庭や学校での子どもの「よろこび」をより広く生かせるようになります。そうすることで、子どもの「よろこび」につながる活動を学校と家庭で共通に理解できるようになります。

子どもの「よろこび」を共に生かし合いましょう。

そうすることで、学校と家庭とが同じ土俵に立ち実践ができ、効果が上がります。

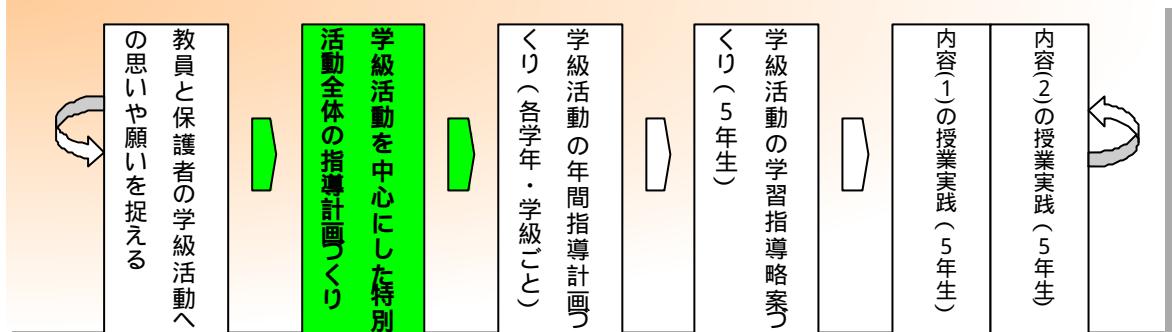


切り取り線

お問い合わせ :



(2) 特別活動の全体の指導計画づくり



学級活動を中心とした特別活動の全体の指導計画を作成する。

1 学級活動を中心とした特別活動の全体の指導計画を作成する(資料3参照)

これまで実施してきた校内研修全体会での結果や保護者・児童へのアンケート調査結果をもとに、学級活動を中心とした特別活動の全体の指導計画を作成した。その際、特に次のようなことを重点にまとめた。

教員の校内研修全体会から

学校の教育目標を受けること

各教科、道徳や総合的な時間との関わりをもたせること

学年・学級経営、生徒指導、道徳教育、人権教育とのかかわりをもたせること

低学年では基本的な生活習慣（あいさつ、整理整頓など）中学年では組織的な活動（計画委員会、係活動など）高学年では個性を生かし、様々な問題（学級のことなど）に積極的に取組ませること

保護者のアンケートから（右のはぐくみ参照）

アンケートの回収率は 94 %であり、回答者は全員何らかの形で協力したい、参加したいと答えている。このような保護者の方々の学校のために何か力になりたいという思いを生かすこと

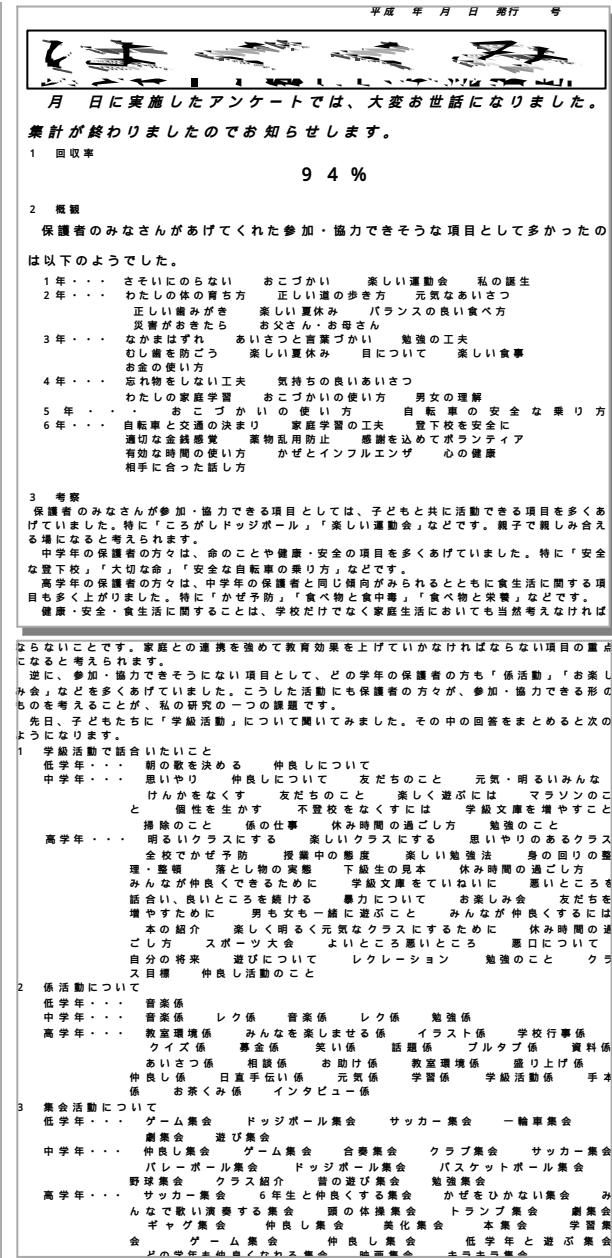
その他、保護者として参加・協力できる欄に、栄養の大切さ、命の尊重、健康安全、感謝の意味、礼儀作法、お金の使い方などの学級活動に協力したいという思いを生かすこと

児童のアンケートから（右のはぐくみ参照）

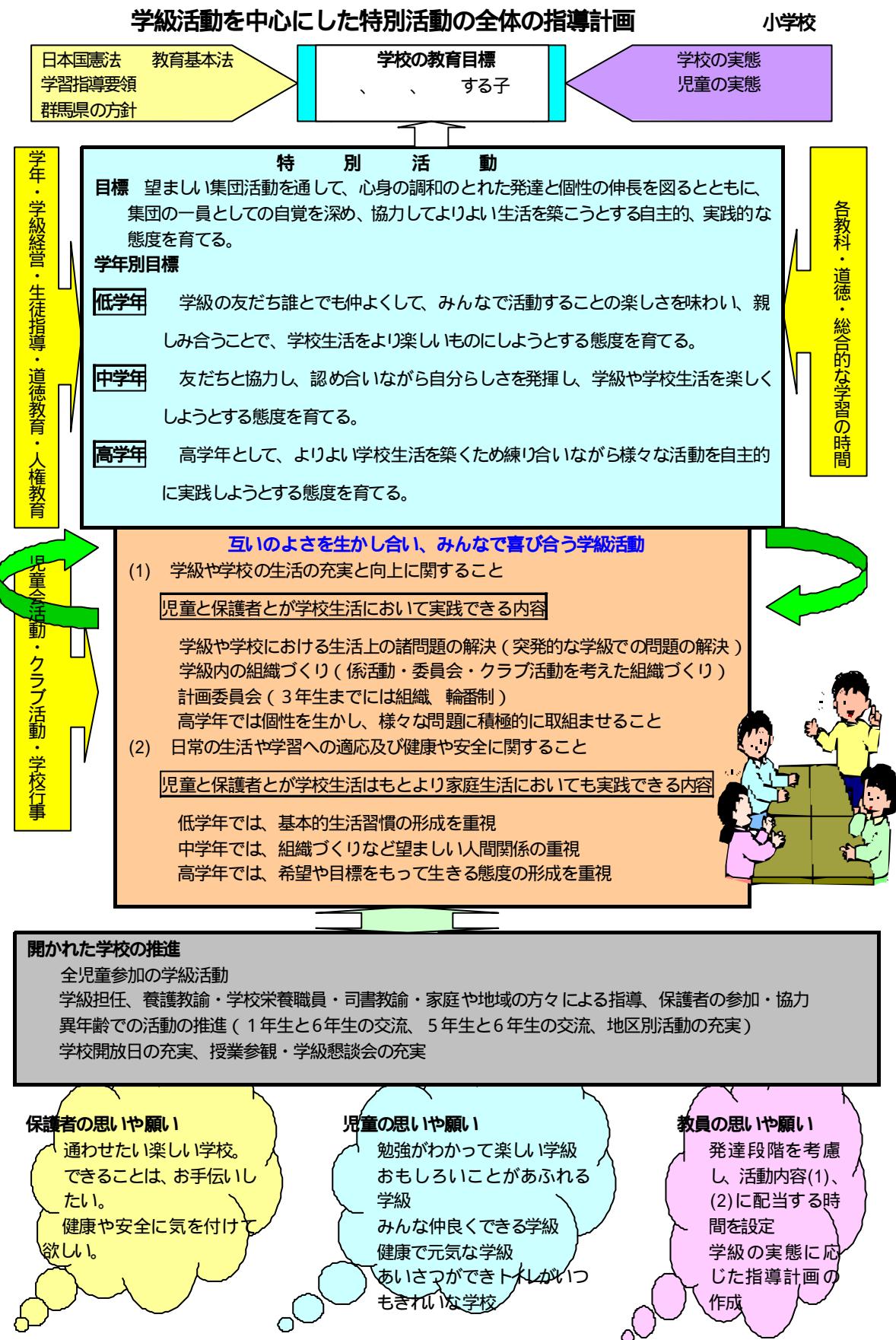
高学年になると、学級活動への要望が増えており、いろいろな活動に取組ませること

レクレーションなど学級を楽しくする活動を増やすこと

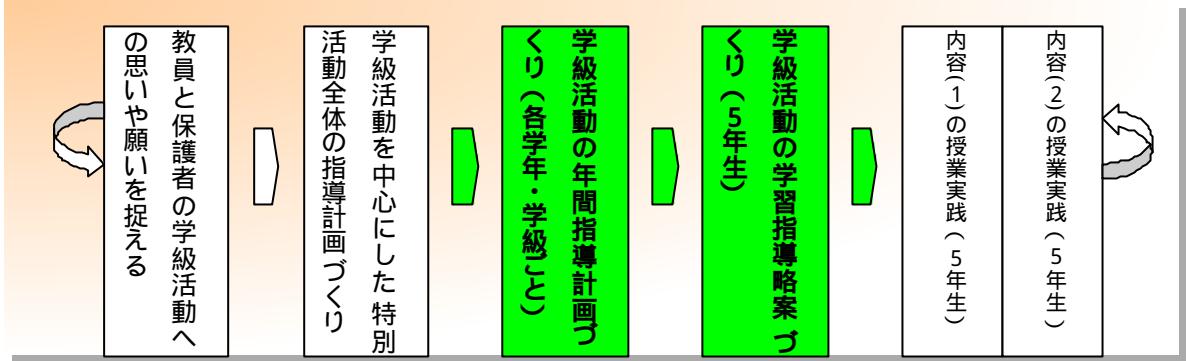
「みんな仲良く」など仲間意識を大切にする活動を増やすこと



資料3



(3) 学級活動の年間指導計画および学習指導略案づくり



学級活動の年間指導計画および「保護者のかかわり」と「練り合いのポイント」を入れた学習指導略案を作成する。

1 学級活動の年間指導計画を作成する (資料集 年間指導計画参照)

特別活動の全体の指導計画をもとに年間指導計画を作成した。その際、次の点に配慮した。

35 時間の学級活動において、何月にどんな議題(題材)を取り上げるか、目標と予想される活動は何かを載せた。

35 時間を学年・保護者・児童の実態に応じて内容(1)と(2)に割り振った。

児童のアンケート調査から、高学年では係活動や集会活動への意欲を生かすため内容(1)を多くし、低学年は内容(2)を多くした。

児童の適応を妨げている問題を、6年間を通して洗い出し計画に入れた。

一年間のスタートである4月には学級のめあてや組織づくりを、学年末にはまとめや次の学年への展望などの内容を多くした。

6学年の題材として、将来の生き方や職業選択に関する問題や中学校に進む心の準備に関する問題を入れた。

突発的な問題に対処できるよう、各学期に1~2時間のゆとりを持たせた。

学級活動の目標、ここでは、楽しい学級活動に参加・協力できる保護者の割合(%)を入れることで、各クラス担任が計画を立てやすいようにした。

議題(題材)は、楽しいタイトルを工夫した。

保護者の方の連携意識がわかるように欄をもうけた。

保護者が参加・協力することで楽しい学級活動になると思われる回答率を載せた。

参加・協力の状況の回答率を載せた。

児童からの要望の欄をもうけ、要望を載せた。

2 学級活動学習指導略案(以下略案)を作成する

(1) 議題(題材)ごとの略案を作成する

内容(1)は、話合い活動、係活動、集会活動で使えるひな形を作成した。

題材(議題)ごとに事前、本時、事後の指導計画を作成した。

教師同士の連携を入れた。

評価規準を入れ、指導の目当てとした。

(2) 略案に保護者のかかわりを載せる

略案には、一単位時間における事前・事後の活動も含めて「保護者のかかわりの欄」を設けた。これは、授業を保護者とともに構想していく上で重要な役割を果たすものとして位置づいた。

「保護者とのかかわり」の中に、学級の全児童の保護者と計画委員の保護者の方の役割を入れ、教師と保護者とともに授業を構想できるようにした。

保護者の意識調査、職業、特技などから計画委員となる保護者を想定し、略案に反映させた。

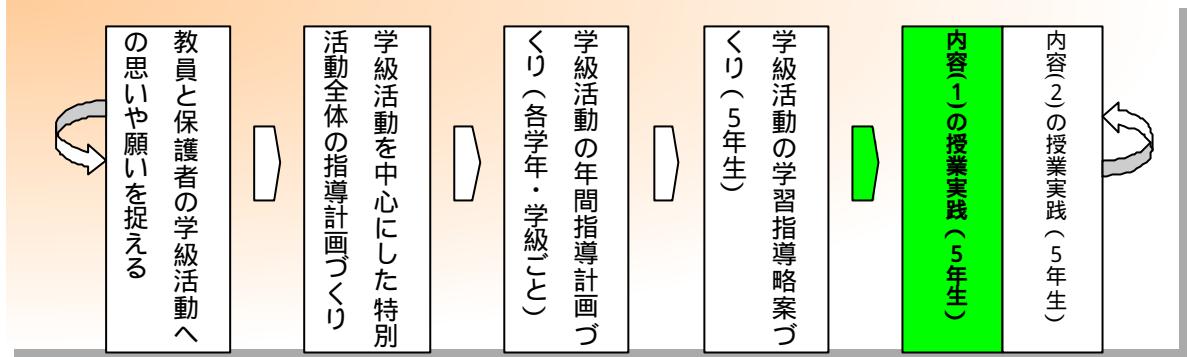
略案をもとに、保護者とともに詳しい学習活動を立てた。

(3) 5年生の略案には話合い活動における「練り合いのポイント」を入れる(資料集:指導略案参照)

内容(2)に16時間を割り当て、「練り合いのポイント」を入れた。

練り合いのポイントを話合い活動の山場とし、児童一人一人のよさが生かせるようにした。

(4) 内容(1)の授業実践 < 5年生 >



保護者も入った話し合い活動で「親と子で楽しむプチ運動会」を計画し、運動会で楽しみ合った。いつまでもいつまでもその話題はつきなかった…。

1 授業実践 「親と子で楽しむプチ運動会を計画しよう」の事前準備をする

(1) 授業実践までの流れ (資料4参照)

5年生の児童のアンケート調査に楽しいクラス(話し合い・係・集会活動)にしたいという意見があった。しかし、保護者のアンケート調査によると、保護者が加わることで楽しい活動になるとを考えている割合は低かった。そこで私は保護者に「児童は楽しい活動を望んでいる」と訴え、保護者の参加と集会活動を結びつけ、本議題を設定し以下のように取組んだ。

学級だより「はぐくみ」で参加・協力を募り、計画委員会の組織づくりを行った。

「はぐくみ」で「親と子で楽しめる運動会」の種目アンケートを実施した。

児童に種目アンケートを実施した。

保護者の計画委員(参加・協力者6名)と、略案をもとに保護者のかかわりを中心に打合せを実施し、計画を立てた。

保護者の種目アンケートをまとめ授業での提示資料を作成した。

児童の計画委員(輪番制の6名)と、授業を想定した模擬授業を実施した。(放課後を使い2回実施した。)

児童の種目アンケートをまとめ事前の提示資料を作成した。

2 アイデアを生かす話し合い活動をする

児童は、6班に分かれ、自分たちの種目に保護者の種目アンケート結果を加えることで、班ごとに種目を練り各班二種目(4班の例 右の図参照)を上げた。最後に全体で確認し合い各班一種目に絞った。計6種目を決定した。

(1) 話合いの進め方

6、7人ずつ6つの班に分けた。その際、同じ種目を上げている児童がなるべく同じ班になるようにし、種目が決まりやすいようにした。

話し合いの流れを知っている計画委員6名を各班長として割りあてた。

保護者の方には、児童が上げていないが保護者の上げている種目を出してもらった。その後児童は保護者のアイデアを生かそうと話し合った。

班員一人一人と保護者の方の意見を取り入れることを、種目をつなげるなどして練り上げた。

(一人一人のアイデアを生かした。)

保護者の方を思いやる意見がたくさん出た。

最後に、自己や互いのよさの発見と、よさを生かす方法を記入した。(プチ運動会終了後、よろこびを書き加えたもの:下の図参照)

自分のよさの発見の例

「意見が言えた。」「楽しく話し合えた。」

友だちのよさの触れ合いの例

「みんなが意見を言っていた。」「協力して意見がまとめられた。」「あまり意見を言わない人が言えた。」「～君～さんがよい意見を言った。」

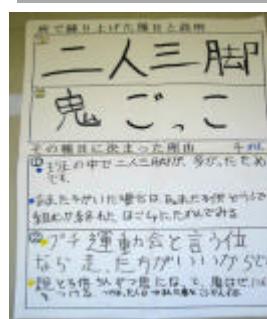
(2) 保護者6名の役割

保護者の種目アンケートの結果を発表する。

(保護者の願いを伝える)

児童一人一人のアイデアを引き出す。

そのアイデアを班のみんなが喜ぶようにまとめるように導く。



3 班で進んでやったプチ運動会の準備

- (1) 保護者へ学級だより「はぐくみ」で、「親と子で楽しむプチ運動会の計画を立てよう」の話合いの様子を伝え、プチ運動会への参加のお願いをする。
- (2) 児童は、決まった種目のための準備を休み時間や放課後を使い自主的に進める。

準備の様子（よさを生かし合っている様子）

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 種目の説明を模造紙に書いている班 | カードなどの小物を協力し合って書いている班 |
| 男女で話合いながら準備している班 | 保護者の方に招待状を書いている班 |

4 親と子で楽しんだプチ運動会

- (1) 「親と子で楽しむプチ運動会」は、平日の学校開放日の3、4時間目を使い体育館で実施した。
- (2) ほぼ全員の保護者が時間差で種目に参加した。
- (3) 児童は、自分たちで考えた種目にアイデアを加え、絵や動作で説明した。
- (4) 児童が保護者の方をリードする場面がありほほえましく感じた。
- (5) 担任は保護者へ学級だより「はぐくみ」で、「親と子で楽しむプチ運動会」を終えての感想と、プチ運動会へ参加・協力のお礼をする。

5 結果と考察

保護者との連携によって 互いのよさを生かし合い、みんなで喜び合うに迫る！

(1) 保護者・児童の感想から

保護者の計画委員6名の話合い活動後の感想をまとめるところである。

よい結果を生み出そうと、考え、話合い、そして、皆で意見を出し合う子どもたちの様子を見て感動しました。この経験は将来社会に出た時に必ず役に立つと思います。家庭では教えることのできない学校教育ならではのすばらしい体験だと強く感じました。プチ運動会が大成功することを願っています。

一人一人の意見（保護者の意見も含む）を大切にしながら、いろいろ意見を言っている児童の姿を見て感動しました。

普段は自分の子どもしかわからなかったが、他の子どもの成長も見られとても勉強になりました。あの子どもたちの姿を見て、親もがんばらなくてはと思いました。

プチ運動会が楽しみです。

5年生になると、あんなにいろいろ意見を言えるようになるのかと感心しました。

とても勉強になりました。子どもたちの学級活動に参加できてよかったです。

子どもがどんどん発言してしているのでとても刺激的でした。いろいろな意見が飛び出してとてもおもしろく感じられました。

プチ運動会終了後の保護者の感想

- 子どもと一緒に楽しく遊んだ。
- またこういう企画をして欲しい。
- 子どもたちの成長が見られた。
- 団結していて安心した。
- 子どもたちが一生懸命計画を立ててがんばっている姿はとてもすばらしかった。
- 子どもたちが細かい所まで話合い協力しプチ運動会を進行していたことに感心した。
- みんな（保護者も含めて）の笑顔がとても生きていた。
- 子どもたち自身でつくった運動会だなと感じました。
- 種目がなつかしく感じられた。
- 「よく笑った。」短く感じた一日でした。
- 久しぶりに体を動かして楽しかったです。



プチ運動会後の児童の感想

- また、プチ運動会をやりたい。
- 心に残りました。
- プチ運動会は成功したと思う。
- みんなで決めたゲームはおもしろかった。
- みんなワクワクしながら待っていた。
- 競技が終わってもみんな運動会のことを言っていた。
- 親もたくさん来てくれてよかったです。
- こまつた人を助けたりして楽しかった。
- 友だちと協力して準備ができた。
- みんなで仲良くできた。
- きちんと班ごとに種目がでたし、自分では、一番良くできた話合いだと思います。
- とってもとってもとっても楽しかった。



(2) 児童の振り返り

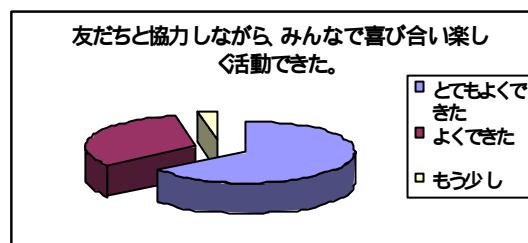
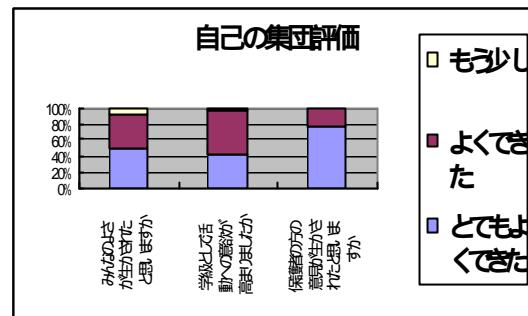
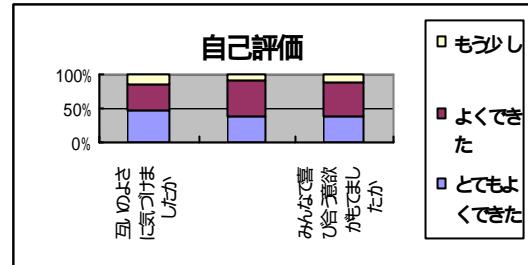
グラフから読みとれること(右のグラフ参照)

話合い活動における自己評価では、保護者が入り、小集団や学級全体で児童一人一人の種目をつなげるなどして練り上げていくこと(互いのよさを生かし合うこと)で、喜びをふくらますこと(喜び合うこと)ができた。そして、自己の集団評価を見ると学級全体で種目が練り上げられ、意欲が高まつていったことが分かった。また、「保護者の方の意見が生かされた」かどうかの項目に、「全員がよくできた」、「とてもよくできた」と答えている。どの児童も保護者の考えを尊重して種目を考えたことが分かる。

集会活動の自己評価では、ほぼ全員の児童が「友だちと協力しながら、みんな(保護者を含む)で喜び合い楽しむ活動できた」と答えている。

観察による評価から

「みんなのよさを生かし合おう」とする様子は、児童が一人一人の考え方や意見を大切にした話合い活動に端を発した。「成功させたい。」「思い出に残したい。」という思いや願いが、練習に汗を流したり細かい作業に苦労したりしている様子から伝わってきた。プチ運動会本番、これまで蓄えられて来た思いや願いのパワーが爆発した。瞳が輝き、笑顔が光り、息が弾んだ。そして、保護者も含めみんなで喜び合った。終わった後も、いつまでもいつまでもプチ運動会の話題がつきることはなかった。



児童A子の変容から読みとれること

話合い直後「もう少し」と自己評価したこと

「話合いが楽しかったですか。」「友だちの思いを受け止めながら発言できましたか」

準備と集会活動での自己評価 とてもよくできた・・・ よくできた・・・ もう少し・・・

準備	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を自覚して、進んで準備の活動をした。 友だちと協力して準備できた。 準備の手順や仕方等が分かる。
集会	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと協力しながら、みんなで喜び合い、楽しく活動できた。 自分のよさを生かし、工夫して活動することができた。 友だちのよさを生かす大切さがわかった。

プチ運動会終了後の感想

わたしは、このプチ運動会は成功したと思います。みんなもお母さんたちもいっしょにゲームができたのでよかったです。楽しかったのでもう一回やってもいいです。

保護者の感想

団結していく安心しました。

担任の観察による評価から

話合いでは、友だちの思いを受け止めることに苦労していた様子であった。準備では、友だちと協力して進んで取組むことができ、徐々に意欲が高まってきた。集会活動では、友だちと仲良くし種目の説明ができ、楽しく活動していた。また、「成功した」と感想を述べている。保護者の方も「団結していく安心した」とコメントを述べている。こうした保護者の思いや願いが伝わっていき意欲が高まつていったとも考えられる。そして、「成功した」「楽しかった」「もう一回やってもいい」という心情にいたったものと推察される。

資料4 指導計画（親と子で楽しむプチ運動会）

事前の活動（教師 児童 計画委員 全保護者 参加・協力する保護者 児童又は児童と保護者へ 保護者へ）	活動の流れ	児童の活動	評価規準	保護者のかかわり	教師の働きかけ
1 アンケートの実施	アイデアを持ち寄り、どんな種目をしたいかアンケートでまとめる。		開・意・態 積極的に発言して、よりよい計画を立てようとしている。 思考・判断 話し合いの柱を考えている。 表現・技能 話し合う順序や時間配分等を決めることができる。 知識・理解 議題や提案理由と話合いの流れ	児童とともにアイデアを考える。 アンケートに答える。	アンケート用紙の作成と回収 保護者の計画委員会の組織づくりをする。
2 計画委員会を組織する。	輪番制で組織された児童司会2名、書記2名、ノート記録1名、提案者1名 提示資料を掲示し、帰りの会で説明する。			参加・協力できる保護者で組織する。 アンケートの集計と提示用資料の作成	児童、保護者、教師の計画委員会を開く。 児童のアンケートの集計と提示資料の作成 話し今までの流れの確認をする。
3 話合いの計画を立てる 4 帰りの会で連絡	全体の流れを計画する係を分担する 提案理由の説明を考え めあてや約束の確認をする。 アンケートをもとに6班に分け小集団による話合いの進め方の確認 日時は 月 日の学校開放日、2時間続行で実施する。 種目は6種目とする。 各班で決まった種目を担当する。 ・進行係を各班1名出す。 話合いカードの作成をする。 帰りの会で話し合う議題を説明し、班編制を発表する。 班で班長を決める。話合いカードを配布する。			全体の流れを計画する役割を分担する めあてや約束の確認をする。 役割分担に従って、作業をする。 種目の説明を考える。	全体の流れの計画を立ておく。 提案理由を考える。 めあてや約束を考えておく。 小集団による話合いの進め方を考えておく。 保護者のかかわりを考えておく。
5 話合い活動の連絡					話合いカードを作成しておく。

本時の学習

(1) ねらい

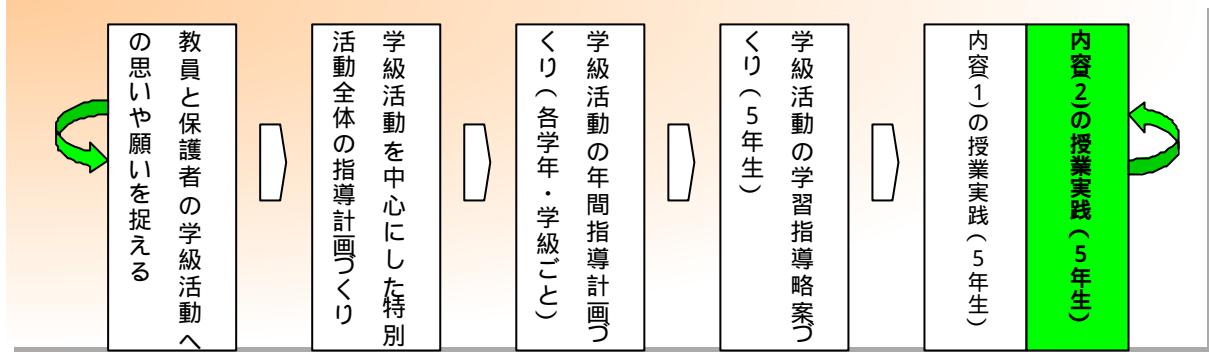
みんなの考えのよさを生かしながら、親と子で楽しめるプチ運動会を計画し、学級や学校の生活をより楽しくする。

(2) 展開

時	活動の流れ	児童の活動	評価規準	保護者のかかわり	教師の働きかけ
5分	1はじめの言葉 2役割の紹介 3議題の確かめ 4提案理由の説明	「これらは話し合い活動を始めます。礼。」議長、副議長、黒板記録2名、ノート記録。議題「親と子で楽しめるプチ運動会の計画を立てよう」 提案理由「学校開放日に親が来る所以で、親子で楽しめるプチ運動会を開き、学級や学校の生活をより楽しくしたいと思います。」 「きょうの話し合いのめあては、親の種目を取り入れながら一人一人の種目をつなぎ、親と子で楽しめるプチ運動会の計画を立てよう。」保護者のアンケートの集計結果について、保護者の方から説明。今の説明を取り入れながら班ごとに2種目に絞り込む。全体で確認し合って、班で1種目を決定する。同時にその種目の担当になる。担当者はその種目の進行をしたりプログラムを作成する。	開・意・態 友達と協力して、話し合いを進めようとしている。 思考・判断 活動を見通した自分の考えをもっている。話し合いの過程に沿って考える。友達の考えを認めながら、よりよい解決方法や実践の方法を考える。	計画委員の児童と並んで座る。	保護者の方には、椅子をもうけ座ってもらう。 計画委員の進行で会が進むよう支援する。
5分	5話し合いのめあての確認 6話し合いの流れの説明 7保護者のアンケートの説明 8班での種目の練り合い	「きょうの話し合いのめあては、親の種目を取り入れながら一人一人の種目をつなぎ、親と子で楽しめるプチ運動会の計画を立てよう。」保護者のアンケートの集計結果について、保護者の方から説明。今の説明を取り入れながら班ごとに2種目に絞り込む。全体で確認し合って、班で1種目を決定する。同時にその種目の担当になる。担当者はその種目の進行をしたりプログラムを作成する。 保護者の方のアンケート結果の説明を聞く。 保護者の方のアンケートの結果を参考にして、班になって種目を2つに絞り込む。その際なぜその種目が決まったかの理由を考える。話し合いカードをもとに班で一人一人順番に発表し話し合い2種目に決める。その際班全員の意見が生かされるように種目を合わせるなど工夫をする。班長の司会で話し合いを始め。	表現・技能 友達の立場や思いを受け止め、練り合うことができる。 知識・理解 話し合いに決まったことが分かる。	アンケートの集計結果について説明する。種目の説明をする。 各班で種目を練り上げていく。 ・種目 ・理由（内容、進め方等） 保護者のアンケートを反映させていく、その際、進化ゲーム、宝さがしゲーム、ペビちゃんけんについて児童に投げかける。 意見があれば言う。 拍手をする。 保護者としての担当を決める。 授業の感想を書く。	きょうの話し合いのめあてをつかむように助言する。 きょうの話し合いの流れをつかむように助言する。 前もって配布して記入してきたプリントの準備を促す。 大切なところはメモを取っておくように助言する。 班での話し合いのポイントの説明。 計画委員の児童も各班に分かれること。 班で種目を2つに絞り込む段階で、班の人の種目をつなぎ合わせるよう助言する。 保護者の方も各班に分かれ種目や、理由について一緒に考えてもうう。 各班小黒板に種目と理由を書いてもらい前に出て発表してもらう。 分かりやすく、はっきり堂々と発表するように助言する。 2つの意見をくっつけるアイデアを出させるようにする。 多数決は最終手段とする。 拍手を促す。 保護者の方にも児童の援助役としての担当者を決めてもらう。 振り返りの項目を説明する。 カードをエンジョイランド（めざせ！！楽しい学級活動）に貼り付けることを伝える。
25分	9各班で決まった種目について、全体の場で発表 10全体会議で6種目決定 11本時の振り返りをする。	各班で絞り込んだ種目を発表する。その際、理由も言う。「1班お願いします。」「2班お願いします。」…「6班お願いします。」各班1種目を決める。2つの種目をくっつけるなどのアイデアがあれば言う。 話し合いの結果6種目に決まる。 振り返りの欄に記入する。 自分のよさや友だちのよさに気づいたことや本番までどのようにしてきたいかカードに書く。「プチ運動会まで約2週間あります。休み時間や放課後に各班ごとに集まって細かいところを話し合って、準備をしてください。」先生の話を聞く。「これできょうの話し合い活動をおわりにします。礼。」	知識・理解 話し合いに決まったことが分かる。		きょうの話し合いのめあてをつかむように助言する。 きょうの話し合いの流れをつかむように助言する。 前もって配布して記入してきたプリントの準備を促す。 大切なところはメモを取っておくように助言する。 班での話し合いのポイントの説明。 計画委員の児童も各班に分かれること。 班で種目を2つに絞り込む段階で、班の人の種目をつなぎ合わせるよう助言する。 保護者の方も各班に分かれ種目や、理由について一緒に考えてもうう。 各班小黒板に種目と理由を書いてもらい前に出て発表してもらう。 分かりやすく、はっきり堂々と発表するように助言する。 2つの意見をくっつけるアイデアを出させるようにする。 多数決は最終手段とする。 拍手を促す。 保護者の方にも児童の援助役としての担当者を決めてもらう。 振り返りの項目を説明する。 カードをエンジョイランド（めざせ！！楽しい学級活動）に貼り付けることを伝える。 きょうの話し合いのよさを認め、励ます。実践への意欲を促す。 保護者の方に感謝の意を表す。 計画委員の児童の努力を認める。
10分	12先生の話 13おわりの言葉				

活動の流れ	児童の活動	評価規準	保護者のかかわり	教師の働きかけ
1 準備	友達の思いや願いを考えながら、協力して集会の準備をする。	開・意・態 思考・判断 技能・表現 知識・理解 自分の役割を自覚して、進んで準備の活動をする。 同じ役割の友達との協力や他の役割との調整について考える。 練り合いながら見通しをもって準備を進める。 めあてにそって、準備の手順や仕方等が分かる。		各係の準備の見通しをしつかりもたせ、計画的な準備を促す。
2 実践	各自がよさを生かす態度で積極的に参加し、まとまりのあるプチ運動会を運営する。	開・意・態 思考・判断 表現・技能 知識・理解 積極的に集会に参加しようとしている。 友だちと協力しながら、楽しく活動しようと考える。 集会の活動に喜びを見出し、自分たちの手で運営する。		各係の準備の見通しをしつかりもたせ、計画的な準備を促す。
3 振り返り	各自がよさを生かす態度で積極的に参加し、まとまりのあるプチ運動会を運営する。 プチ運動会の一連の流れを振り返り、今後の活動に生かす。	開・意・態 思考・判断 表現・技能 知識・理解 生かそうとする。 互いの活動のよさの認め合い方を考える。 プチ運動会の成果を次に生かそうとする。	感想を書く。	みんながよさを發揮し、活動できる集会にする。 「プチ運動会の一連の流れを振り返り、次に生かすようにする。」

(5) 内容(2)の授業実践 < 5年生 >



学級が変わりました。言葉遣いや行動についての問題点を保護者と一緒に話し合い、その解決策をリレー物語で表現しました。笑顔が広がり明るく楽しくなりました。

1 授業実践 相手の立場を考えて

(1) 授業実践までの流れ (資料5参照)

5年組児童のアンケート調査では、「思いやりのあるクラス」「いじめのないクラス」「みんなが仲良くできるクラス」などを題材として望んでいた。また、保護者のアンケート調査によると、保護者が加わることで楽しい学級活動になるとされている割合は35%であった。そこで保護者の参加・協力を得て、児童の問題意識を解決するため本題材を設定した。

学級だより「はぐくみ」で参加・協力を募り、保護者の計画委員を組織した。

学級だより「はぐくみ」で、保護者に「子どもの気になる言動」のアンケートを実施した。

児童に「言われてうれしい言葉、いやな言葉」のアンケートを実施した。

保護者の計画委員(参加・協力者6名)と、保護者のかかわりを中心に打合せを実施した。リレー物語をつくることが中心になった。

計画委員の保護者とともに保護者の「子どもの気になる言動」のアンケートをまとめ授業での提示資料を作成した。

児童の計画委員(輪番制の5名)と、授業展開のシミュレーションをする。(放課後を使いリレー物語つくりを中心に2回実施した。)

児童の「言われてうれしい言葉、いやな言葉」のアンケートをまとめ事前の提示資料を作成した。

2 アイデアが生きた話し合い活動

児童は、保護者のリレー物語(劇)と児童の計画委員のリレー物語の問題点を上げ解決策を考えた。そして班ごとに解決策を練り上げて(2班の例 右の図参照)全員参加のリレー物語を発表した。

(1) 話合いの進め方

6、7人ずつ6つの小集団(班)に分かれた。

保護者の方と児童の計画委員によるリレー物語の発表から、それらの物語の問題点を「相手の立場を考えているかの視点」で児童一人一人が上げ、解決策を練り上げた。(一人一人の解決策のアイデアを生かした。)

練り上げた解決策を各班ごと全員参加のリレー物語にして発表した。(共有化を図った。)

最後に、自分や友だちのよさの発見と、よさの生かし合いを記入した。(下の図参照)

自分のよさの発見

「いやなことを言われるととても悲しいことがみんなの劇を見ていてわかった。」「大きな声で発表できた。」

友だちとのよさの触れ合い

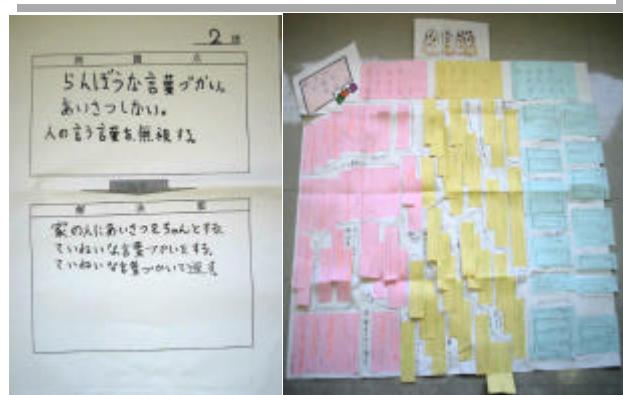
「みんないろいろな問題点を出していた。」「一人一人の意見が生かされた。」「みんなちゃんと分かっている。」「みんな人ごとでなく自分のこととして考えていた。」

(2) 保護者6名の役割

保護者のアンケートの結果を参考にリレー物語をつくり、それを発表する。

児童一人一人のアイデアを引き出す。

そのアイデアを班のみんなが喜び合えるように導く。



3 授業を実践へつなぐ

- (1) 担任は保護者へ情報交換誌「はぐくみ」で、児童の実践の様子を知ってもらうため、児童のカードを一週間見せてもらうことををお願いする。 (資料6参照)
- (2) 児童は、授業の成果を生かすため一週間「相手の立場を考えて」慎んだ言動をカードに記入する。 (資料7参照)

4 結果と考察

保護者との連携によって 互いのよさを生かし合い、みんなで喜び合うに迫る!

(1) 保護者・児童の感想から

保護者の計画委員6名の話合い活動後の感想

子どもたちはよく問題点を理解していた。その問題点の解決策もしっかりできていた。この授業で学んだことを日常の生活に生かしてほしい。

承知していてもできないことがたくさんあるようです。子どもたちの思いやりややさしさに感動させられました。

私が口をはさむひまがないほど、皆で話し合っていた。親が考えている以上の問題点を出してくれた。

相手の立場に立って考えることはとても難しい事です。柔軟な心と思いやりとで相手を理解してもらえたとと思います。自分が言われたり、されたりしたらいやなことは人には絶対に言ったりしたりしない子どもになって欲しい。

本当に子どもたちはよく気が付き、素直に反省できるよい子です。ただ、少しでも「相手の立場を考えて」というのがこれを機に身に付いてくれればと思います。

子どもが普段の生活でこの話合いを役立てていってくれることが大切です。

一週間後の保護者の児童へのメッセージ

友だちと仲良くして楽しい学校にしようというのが伝わってきた。
悪口を言わないのはあたりまえだよね。
困っている子がいたら気にとめてあげられる子になって欲しい。
人と人とのかかわりの中で言葉遣いはとっても大切なことです。
自分が言われてイヤな事は他人もイヤだということがよくわかっていると思います。
いつもやさしい気持ちをもち続けて欲しいものです。
前よりも意識して、考えながら言葉を遣っていますね。
これからも言動に気を付けて欲しい。
私自身も「言葉遣い」を意識して暮らし始めました。少し反省しています。
何より仲良く暮らしていくために相手の立場を考えなければなりません。
まずは私が子どもたちと一緒にやっていこうと思います。
言葉や態度がもし誤解されたら心に傷を負ってしまいます。

児童が感じ取った「一番うれしかったこと」

みんないい顔だった。
お母さんの反応がよかった。お母さんにほめられた。
家族で言葉遣いに気を付けるようになった。
言葉遣いに気を付けたら相手もやさしくしてくれた。
言葉遣いが荒くなくなった。ていねいに話せるようになった。
口げんかをしなくなった。友だちにていねいな言葉をかけられた。
言葉遣いに気を付けただけで、おこる人がおこらなくなったり。
悪口を言ってしまってごめんなさいと言ったら、笑ってゆるしてくれた。スッキリした。
言葉遣いに気を付けたらみんな仲良くしてくれた。
みんなきげんがよかった。
言葉遣いがいいときは、自分もいい気持ちがした。

(2) 児童の振り返り

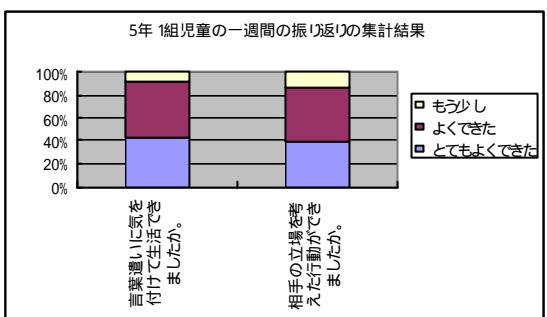
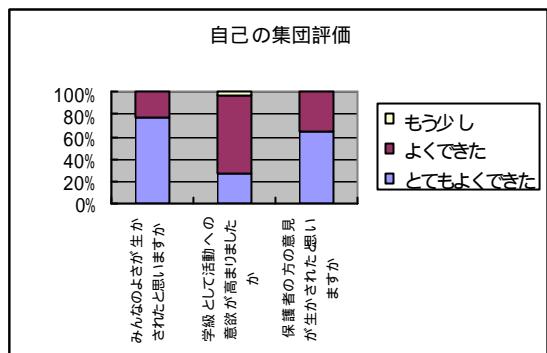
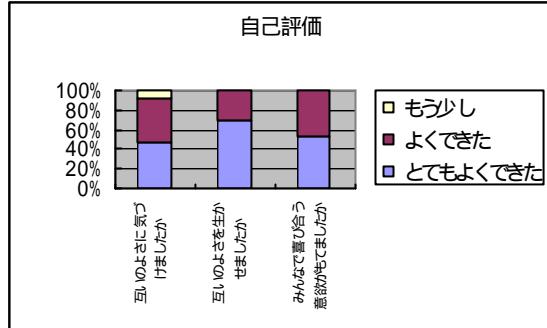
グラフから読みとれること(右のグラフ参照)

学級活動での結果と比べて、自己評価は全項目で上回っている。自己の集団評価では「保護者の方の意見が生かされた」「学級として活動への意欲が高まったか」の2項目については「とてもよくできた」が減っている。この原因は、集団の問題と言うより個人の問題として捉えていることがあげられる。

一週間の振り返りの集計結果では、相手の立場を考え「話したり」「行動したり」できたかの割合は、どちらも約40%が「とてもよくできた」約45%が「よくできた」約15%が「もう少し」と答えている。もう少しと回答した児童の意識を変えていくよう努力したい。

観察による評価から

「みんなのよさを生かし合おう」とする様子は、児童が一人一人の考え方や意見を大切にして言葉遣いや行動の問題点を上げ、班で話合い解決策を練り合ったこと、そして、班のみんなでリレー物語をつくり、発表し合ったことで見取ることができた。全員が何らかの役割をもち、解決策を体験できたことは、これから的生活に生きて働くエネルギーとなった。そして、児童一人一人はこれから人との接し方で「あいさつをする。」「ていねいにいう。」「いやなことは言わない。」「うれしい言葉をつかう。」「親に対する言動に気を付ける。」「人の言うことをよく聞く。」などの目標を立て、みんなで喜び合える学級を目指している。



児童A子の変容から読みとれること

話合い直後「もう少し」と自己評価したこと

「友だちの立場や思いを受け止めながら発言できましたか」

これから相手に対してどのように接していくか。

目標

正しい言葉づかいをして仲良くする。

一週間を振り返り一番うれしかったこと

「(みんなが)よろこんでくれたときがうれしかった。」



保護者からのメッセージ

相手とわかりあえる関係を大事にしていこうと家族で話合いました。

観察による評価から

話合いでは、友だちの思いを受け止めることに苦労していた様子であった。一週間の様子は、言葉遣いに今までより気を付けて生活していたことが友だちや先生との会話でわかった。また、態度にも気を付けていることも振り返りカードの記入でわかった。7日目には「相手の立場に合った言葉遣いの大切さがわかった。」と書いている。一週間を振り返り一番うれしかったことは「(みんなが)よろこんでくれたこと」と書いている。学校生活や保護者からのメッセージにあるような家庭での会話を通し、自分から正しい言葉を遣うことによって、みんなが喜んでくれるのを見て、自分も喜びが広がっていったことが分かる。互いのよさを生かし合い、みんなで喜び合うことに一步近づいたと言える。

資料5 指導計画（相手の立場を考えて）

事前の活動（活動の流れ）	全児童 計画委員 全保護者	児童の活動	評価規準	参加・協力する保護者	児童へ又は児童と保護者へ 保護者へ）	教師の働きかけ
1 アンケートの実施	言られてつれしい言葉、いやな言葉をアンケート用紙に記入し担任に提出する。	開・意・態 自分や友だちの言葉遣いに関心がある。	日常生活で児童の気になる言葉や態度をアンケート用紙に記入し担任に提出する。	児童用及び保護者用アンケート用紙の作成及び配布をする。 アンケート用紙の回収 保護者の計画委員会の組織づくりをする。	児童と保護者へ	児童用及び保護者用アンケート用紙の作成及び配布をする。 アンケート用紙の回収 保護者の計画委員会の組織づくりをする。
2 計画委員会を組織する。	輪番制で組織された児童司会2名、書記2名、ノート記録1名 アンケートの集計と提示よう資料の作成 提示資料を掲示し、説明する。	思考・判断 言られてうれしい言葉、いやな言葉を考える。 技能・表現 アンケートに自己の考えを書く。 提示資料を作成する。	参加・協力できる保護者で組織する。 アンケートの集計と提示用資料の作成	児童、保護者、教師による計画委員会を開く。 話し合いまでの流れの確認をする。	児童へ	児童、保護者、教師による計画委員会を開く。 話し合いまでの流れの確認をする。
3 話合いの計画を立てる	全体の流れを計画する 係を分担する めあてや約束の確認する。 小集団（班）による話し合いの進め方の確認	知識・理解 アンケートの目的が分かる。提示資料の作成手順が分かる。	全体の流れを計画する 役割を分担する めあてや約束の確認をする。	児童へ	全体の流れを計画する 役割を分担する めあてや約束の確認をする。	全体の流れの計画を立てておく。 係分担を考えておく。 めあてや約束を考えておく。 小集団（班）の話し合いの進め方を考えておく。 児童及び保護者のリレー物語づくりの仕方を考えておく。
4 話合い活動の連絡	言られてうれしい言葉、いやな言葉からリレー物語つくりをする 帰りの会でアンケート調査の結果を説明する。	技能・表現 アンケートに従って、作業をする。 気になる言葉や態度からリレー物語つくりをする。	児童へ	児童へ	児童へ	児童へ

本時の話し合い活動の展開

- (1) **ねらい**
悪い言葉や相手を傷つける言葉をつつしめ、相手の立場になって行動できる。
- (2) **展開**

時	活動の流れ	児童の活動	評価規準	保護者のかかわり	教師の働きかけ
5分	1 はじめの言葉 2 役割の紹介 3 題材の確かめ 4 話合いのめあての確認 5 話合いの流れの確認	「これから話し合い活動をはじめます。礼」 議長、副議長、黒板記録、ノート記録。 題材「相手の立場を考えて」 「きょうの話し合いのめあては、悪い言葉や相手を傷つける言葉をつつしめ、相手の立場になって行動できるようにする。」 保護者の方の物語の発表と計画委員がアンケート結果をもとにつくりた物語を見る。その物語の解決策を各自話し合いカードに記入。1班～3班は保護者、4班～6班は計画委員会の物語を、話し合いカードをもとにうまく解決するように物語を考え発表する。	開・意・態 言動について話合うことには関心がある。	計画委員の児童と並んで座る。	保護者の方には、椅子をもうけ座ってもらつ。 計画委員の進行で会が進むように援助する。
10分	6 保護者によるリレー物語の発表 7 解決策を各自で考える 8 計画委員のリレー物語の発表 9 解決策を各自で考える 10 班を作り、解決策を練り合う。 11 リレー物語を発表する。（共有化する）	保護者の方による物語の発表を聞く。 この物語の問題点と解決策を各自で話し合いカードに記入する。 計画委員の発表を見て解決策を考える。 この物語の問題点と解決策を話し合いカードに記入する。 班を作り一人一人の話し合いカードを発表仕合い、物語の解決策を、リレー物語にまとめる。 問題点と解決策を発表する。次にリレー物語を発表する。発表以外の班は問題点をどう解決しているか話し合いカードに記入しながら聞く。「1班お願いします。」・・・ 話し合いカードの振り返りの欄に記入する。 自分のよさやみんなのよさに気づいたことやこれから相手に対してどのように接していくかカードに記入する。	思考・判断 リレー物語を発表し合い、よい改善の方法を考える。	アンケート結果をもとに日常生活での児童の問題点を明確にした発表をする。	きょうの話し合いのめあてをつかむように助言する。 きょうの話し合いの流れをつかむように助言する。 筆記用具の準備を促す。 班になって、物語の解決策を考えいくことを確認する。 物語の問題点は何かをしつかり押さえるように助言する。 問題点とその解決策をカードに記入するように助言する。 物語の問題点は何かをしつかり押さえるように助言する。 問題点とその解決策をカードに記入するように助言する。 班で問題点を持ち寄り意見交換する中でよりよい解決策を話し合い物語をつくっていくように助言する。 計画委員の児童も各班に分かれ解決策を練り上げていくように助言する。 保護者の方も各班に分かれ解決策を練り上げてもらうようにする。
20分	12 本時の振り返りをする。 13 先生の話 14 おわりの言葉	各班に分かれ話し合いに参加し、解決策を練り上げていく。 授業の感想を書く。	技能・表現 リレー物語を見て解決策を考え、表現する。	各班に分かれ話し合いに参加し、解決策を練り上げていく。	分かりやすく、はっきり堂々と発表するように助言する。
10分			知識・理解 言動が原因のけんかの解決策が分かる。	授業の感想を書く。	カードをエンジョイランド（めざせ！！楽しい学級活動）に貼り付けることを伝える。

事後の活動

活動の流れ	児童の活動	評価	保護者のかかわり	教師の働きかけ
1 言葉遣いに気を付けて生活する。	お互いに言葉遣いに気を付ける。	開・意・態 思考・判断 技能・表現 知識・理解 言葉遣いに関心をもち生活しようとする。 相手の立場に合う言葉遣いについて考えている。 相手の立場に合った言動ができる。 相手の立場にあった言葉遣いの大切さが分かる。	家庭で言葉遣いに気を付けて生活させる。	学習の成果を学級便り「はぐくみ」で知らせる。 学級の成果を実生活で生かせるように働きかける。

資料6

平成 年 月 日 発行	平成 年 月 日 発行		
5年組 限定版	5年組 限定版		
5年組 保護者様	5年組 保護者様		
学級活動「相手の立場を考えて」の授業を終えて			
この授業の目的は「悪い言葉や相手を傷つける言葉をつつしめ、相手の立場になって行動できる」ようにです。この授業を通して、私たちはことを学びました。			
1児童がこの問題をまじめに捉え、真剣に取り組んだこと			
2今後の学校生活や家庭生活が楽しみに感じたこと			
3学校や家庭での生活で言葉遊びや行動に気を付けることが社会生活で大切であること			
最近は、子どもたちの言葉が乱れている、よく耳にします。たしかに、子ども同士の会話を聞いてみると、乱暴な言葉遊びが多いような気がします。品の良い言葉遣いと今までいかなくて「～です。」「～ます。」という言葉遊びが自然にできるという環境が必要なのではないでしょうか。さらに困ったことに、大人や高齢者に対する対応の尊敬、感謝、思いやりなどが感じられない言葉がまかり通っている現状があり、とても残念に感じます。			
きょうの授業は、子どもたちは言葉遊びについて考えさせると共に、今後の自分の言動について考えさせる良い機会になったと思います。			
ぜひ、家庭でもこの授業を実生活に生かせるよう子どもたちを励ましてほしいと思います。			
お願い ...			
子どもに「振り返り用紙」(A4版表裏刷り)を持たせました。今日の学級活動の授業から言葉遣いや行動に気を付ける生活ができるようにするための用紙です。			
月まるの日から月 日までの期間になります。回収日を月 日()に都合上、受け入れりますが、月 日に保護者の方から欄に子どもへの同じくの言葉を記入の上持たせてください。			
子どもの欄の記入例			
(例) X月XX日(X)			
1	2	3	4
この欄は、言葉遣いや行動で「自分から」気を付けて行ったことを書く。			
保護者の方からの記入例			
(子どものへ同じくの言葉を書いてください。)			
言葉遊びがとてもいいになりましたね。あいさつもきちんとできるようになり、お母さんはとても喜んでいます。何よりも・・・			
お問い合わせ先: まで			

資料7

「相手の立場を考えて」行動できたか振り返ろう											
年組筆名欄											
★これから相手に對してどのように接していくか書きましょう。											
とてもよくできた・・・◎ よくできた・・・○ もう少し・・・△											
1 言葉遣いに気を付けて生活できましたか。											
2 相手の立場を考えた言葉遣いを考えられましたか。											
3 相手の立場に合った行動ができましたか。											
4 相手の立場に合った言葉遣いの大切さがわかりましたか。											
(例) X月XX日(X)				11月27日(水)				11月28日(木)			
1	◎	2	○	3	△	4	△	1	2	3	4
この欄は、言葉遣いや行動で「自分から」気を付けて行ったことを書く。											
この欄は、その時の「友だちや保護者の方」の反応や様子を書く。											
11月29日(金)				11月30日(土)				12月1日(日)			
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
① 一週間を振り返り、言葉遣いや行動で「自分から」気を付けて行き、「友だちや保護者の方」の反応や様子で、一筆うれしかったことを書いてください。											

まとめと今後の課題

1 研究のまとめ

- (1) 保護者との連携で互いのよさを生かし合い、みんなで喜び合う学級活動について
- ア 話合い活動の計画段階から教師と保護者とが児童のよさを生かすという共通の取組みができ、児童への教育効果が高まった。
 - イ 学級活動指導略案に話合いのポイント（高学年では練り合いのポイント）を入れ、授業を構想することで、児童が自分のアイデアを進んで発表できるようになった。
 - ウ 話合い活動の議題・題材に関する保護者へのアンケート調査を学級活動の年間指導計画に反映させることで、児童のよさを生かす上で保護者が考えていることを学級活動で扱うことが可能になった。
 - エ 通信「はぐくみ」を発行し学級活動に関する情報を教師と保護者とが相互に交換することで、児童のよさをともに育んでいるという意識がさらに高められた。
 - オ 1時間の流れの中に小集団（班）の話合い活動を入れることで、全体では意見の言えない児童も言えるようになった。
- (2) 学級の実態に応じた指導計画の作成で児童の意欲を高める
- 学級活動の指導計画を学級の実態に応じたものにすることで、学級活動への関心が高められ、児童が自己の問題として意欲的に取組むようになった。
- (3) 授業実践
- ア 内容(1)「学級や学校の生活の充実と向上に関すること」における集会活動において保護者参加の集会活動を計画することで、内容(1)における計画段階からの保護者との連携の一つ形を示せた。内容(2)「日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関するこ
 - とについては、児童一人一人のアイデアが生かされる授業展開の工夫（ここではリレー物語）が実践意欲につなげるように有効であった。
 - イ 児童一人一人が自分のアイデアをもち、小集団（班）で話し合い、互いのアイデアをつなげるなどして練り上げることで、児童一人一人が生かされるようになった。そして、自分のアイデアが生かされた活動をみんなで実践して、みんなで喜び合うことができた。また、よさを自己及び相互で振り返ることで互いに自信をもち、自尊感情が高められた。

2 今後の課題

- (1) 児童や保護者の思いや願いに応じた話合い活動の工夫

2回の話合い活動の実践は、保護者とのアポイントメントや打合せの時間や提示資料の作成に多くの時間を費やし、担任や保護者の加重負担になってしまった。これらの問題点を克服するには、保護者の参加・協力、保護者との情報交換を含め児童の思いや願い、保護者の思いや願いに応じた無理のない学級活動の工夫が必要である。

- (2) 保護者との連携を効果的に盛り込んだ指導計画の作成

学級活動に関する保護者の関心・意欲を高める工夫をするとともに、「どの子も生かされたい、生かしたい」という保護者の思いや願いを盛り込んだ年間指導計画を作成すること。

- (3) 保護者とともに授業の構想ができる学級活動の指導略案の作成

各学年（各学級）の保護者の実態が生かされたもので、保護者にとって目的・内容・学習の流れがわかり、児童のよさを生かす案が浮かんでくる略案の作成をする。

<参考文献>

- ・宮川 八岐 編著 小学校特別活動基礎・基本と学習指導の実際 東洋館出版社(2002)